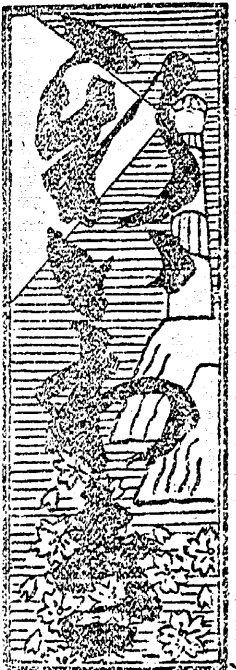


刊夕 日九十二月二



支那那單語
張さんが来たと言ふ様
な場合は張先生來了と
チアンシェンシオンラ
イラ、お前は来るか来
ぬと云ふことはニール
イブライ、私は必ず来
ると云ふなら我進來で
ウオチンライと云ふ

平市の鐵工業に

東派の助勢計畫

某工場を買収百万圓の會社 鑛山機械その他の製造に

平市の鐵工業が近年著しき發
展途上にあるを見て東北振興
會社では一と肌をぬいた助勢
をなし同市に一大工場を建設
しやう計畫から去る二十七日
同社重役田坂一郎氏、同職託
東京帝大工學部講師龍田昌之
技師、事業總務兼機械工業兩
課長安田吉助等相携へて
來平、市内各鐵工所を視察し
昨二十八日は縣商工課の鈴木
技師、西坂昭託及び平鐵工機
械工業組合の田邊理事長並び
に佐藤理事等の案内で湯本町
の品川白煉瓦工場、小名濱町
日業工場、錦村の吳羽人絹工
場を視察の上歸社したが平市
に建設せんとする鐵工場の計
畫には某工場を買収の意圖が
あり其れを擴充するに最初百
萬圓位の株式會社をもつて地
方實業及び關係者からの募株
を合せるものに五十萬圓を拂
込み鑛山機械製造並びに各工

記念事業に

平窪で造林

五町二反歩へ

平市平窪では紀元二千六百年
の記念事業として區有林の整
林及び造林を計畫し五町二反
歩へ松、杉、樺の植樹二萬本
を行ふこととなり市ではこれ
に對して四百五十圓の補助を
なすことになつてゐる

商港災害復舊工事

第一回の入札不調

資材運搬が何より一難

小名濱商港の災害復舊工事は
要ガソリンの配給が懸念され
一昨二十七日縣土木部で指定
入札に附され平市振興工業會
社もそれに加はつたが總額廿
餘萬圓に上る同工事は砂、
セメント、砂利、捨て石等の
資材運搬のみでもトラック延
九千台を要し一年三百日の
賃勞日程として一日三十台を
數えられるものゝ如く此の所

平市公會堂に

忠靈室

正面の三階に

平市では明十五年度の豫算に
市内出身勇士戦歿者の遺影遺
品並びに肥後等を陳列する忠
靈室を市公會堂三階に設けて
偉勳を永久に遺さうと云ふこ
との計畫を立てゝゐる

我軍は不可能を

可能とするのである

我が軍は不可能を可能とす
るのであると、ある人は云
ひましたが彼等は遂に精神
力をもつて不可能を可能に
したのである、自分は兵の一
人一人に對して本當に頭が

戦地の便り

平市材木町出身
鈴木砲兵中尉

共成會を結成

ネオオキの本部株式會社
大正製藥では製藥の販賣組織
をチェンストア式に共成會の
名を以て其の株主であるもの

本年五月

龍城會講展

平市公會堂で
石城講壇を飾る龍城會の美術
展覽會は来る五月二十日平市
公會堂日本間に開催の筈であ
るが出品者は左記の如く何れ
も名をなす地方人だけに好評
を博する事であらう

増反倍加の

煙草播種開始

昨日飯野村から
石城郡下の煙草耕作は昨年百
町余歩であつたものを郡山専
賣局平出出張所及び郡農會の勸
奨による増反倍加の計畫が豫
定の通り二百町歩に達したが
郡内最初の同播種は昨二十八
日飯野村から開始した同村の
栽培は耕作者二十八名で二町
七反歩を算し三月五日頃まで
に終了の筈で郡内各營業でも
十日頃までに播種終了の見込
みである

昨夜の火事は

大浦の醬油屋

農家四戸類焼
石城郡大浦村の上仁井田味吟
醬油醸造業渡邊金治氏方から
今二十九日午前零時半頃發火
同家の倉庫二棟を焼失して隣
接の農家左記(住家四非住家
五)を類焼せしめ同三時頃火
した原因並びに損害は目下調
査中であるが木村方廻廊から
の出火らしく損害は一萬圓を
超えるものと見られてゐる

水難救濟宣傳の

浪曲と映畫夕

帝國水難救濟會本縣支部平地
方委員部では同事業強化の爲
事務家諸兄に
ムツリニベン
を奨む
國産品に斯んなよいベ
ンがあるのは喜ばし
ことです
錆びない、書きよ、耐
ちよ、三拍子揃つた
ベンです、

故永島教諭

葬會葬御禮

昭和十五年二月二十九日
高島縣立警城
高等女學校校長
正木貞二郎

め來三月左記に於て浪曲と映
畫の夕を開催する
△七日湯本三曲座 内郷村
第二劇場 八日平市樂樂館
好間村好樂館 九日小名濱
町警城座 江名町江樂館
何れも午後六時から

△類焼神谷祐 同神谷てふ
同木村富治 同酒井次郎作

△水難救濟宣傳の
浪曲と映畫夕

帝國水難救濟會本縣支部平地
方委員部では同事業強化の爲

事務家諸兄に
ムツリニベン
を奨む

國産品に斯んなよいベ
ンがあるのは喜ばし
ことです

錆びない、書きよ、耐
ちよ、三拍子揃つた
ベンです、

故永島教諭
葬會葬御禮
昭和十五年二月二十九日
高島縣立警城
高等女學校校長
正木貞二郎

文魁文堂
電話313番

浪曲と映畫夕
帝國水難救濟會本縣支部平地
方委員部では同事業強化の爲

尼子亭
別府家伝

め來三月左記に於て浪曲と映
畫の夕を開催する

故永島教諭
葬會葬御禮
昭和十五年二月二十九日
高島縣立警城
高等女學校校長
正木貞二郎

文魁文堂
電話313番

出思ひ
大森 勇
(68)
事變が何日迄続くのか私には
わからぬが、まだ辛抱はせね
ばならぬのだらう。事變の見
通しがつかぬと心配する、向
きもある様だが、蔣政権は既
に没落の軌道に乗つたので、
影も形もなく消滅してしま
うか如何かはわからぬが、足腰
の立たぬ迄に打ちのめさるゝ
のは遠くあるまい。見通しが
つかぬと心配するのは、心配
の爲の心配で本當の心配でな
い。また物資の欠乏を心配さ
るゝ向きもあるが、日滿支三
國の地上には切り切れぬ程の
實が繁茂してゐるのだし、地下
にも無盡蔵の寶が埋没してゐ
るのだから、問題は物資の欠乏
を心配する事ではなくて、如何
にして切り取り如何にして掘
り取るかの工夫である。朝日
新聞に陸軍省整備局員陸軍
歩兵少佐加藤長氏が、強靱性
の生活はまだ、余裕がある
と云はなければならぬ。私が
微動もせず悲觀は愛國的な誤
解と題して書いてゐるが、あの
記事を読んで見ても悲觀する
必要がないと思ふ。欧州大戦
當時英國に行つた人の話を聞
くと、食料品の欠乏は想像以
上で、日本人が上陸すると砂
糖を買ひ度い爲めにあとから

ぞろぞろとつて來た相だ。朝
日新聞社のペルリン特派員石
山慶治郎氏の書いた獨逸の戦
時經濟を讀むと、衣食住も相
當以上に窮屈な事がわかる。
例へば鶏卵は一ヶ月にたつた
四ヶ牛乳は病人と小供以外に
は飲むことが出来ないと書い
てゐる。それに較べると吾々
の生活はまだ、余裕がある
と云はなければならぬ。今から
物資の欠乏など、悲鳴をあげ
るのは早過ぎる。支那に行つ
て戦跡を見ればすぐわかるの
だが、世の中に敗戦以上に悲
慘なものはあるまい、吾人は
心のねちをしめ直して東亞新
秩序の建設に邁進せねばなら
ぬ。

終り

産業方面

時勢から寵児へ

木炭伏焼法

宮城県の林務課で

一般に奨励して

△炭材の積み込み：まづ窯の底に縦に三條若くは四條の敷き木を敷きその上に細い炭材を五、六寸の厚さに積み、さらにその上に普通の炭材を積むのである、炭材の大小を三通りぐらゐに別けて極端にひらきのあるものを混交しないこと、積み込みの厚さは窯の幅と同じぐらゐ、

△被土法：前の竈口と後方の下部左右両端に各六寸程ぐらゐの枕石を設けてその上に一尺周りがらゐの丸太材を二、三本ならべ架けて棚をつくり火入口と煙出し口にする、次ぎを積み込んだ炭材の周りと上を小柴、萱草または松、杉、檜等の葉で五、六寸の厚さに覆ひその外部を素灰（粉灰と焼土の混合物）で天井と前側は一尺ぐらゐ、他は五、六寸の厚さに覆ひ、そのほか一尺五寸周りがらゐの丸太材で崩れぬやうに固む、

△火入れ及び出炭、火入れ口から焚き火を差入れて後部から盛んに煙が出るやうになつたなら火入れ口の枕石や棚木を取りのぞいて全部を塞ぐ、出炭は毎日一回前の方から焼けた分で順次に出す、即ち焼けた部分は天井が落ちて一段下るからその部分は炭化した證據である、そこを掻き出し残る部分には素早く素灰をかけて元通りに塞いで置くので

スペイン GHN 元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒
御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
(平二) 西村屋薬舗 (電三)

ある(完り)

肉の御用命は
三三三屋
牛も豚も優良品の自慢

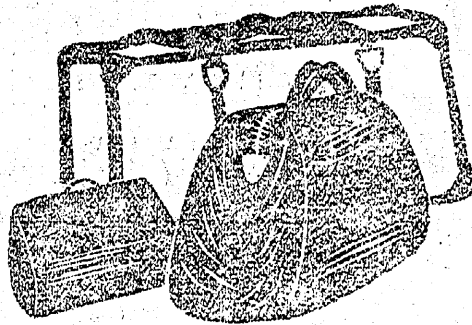
醤油、味噌、
たひら正宗
鰹節食料品

お醤油はヤマフル

明治生命製城代理店
山崎合名會社
電話 本営業部 二七〇番
山崎與三郎

附屬産院 新設
妊産婦入院隨意
婦人科 **木村病院**
電話 一六四番
平市 新川町

カバと洋品類



眞砂屋 (前平市驛、新道通り)
電話 五六五

便利で
經濟な **日下家政婦會**
派出婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから
何を任せしても安心です
平市一丁目三十一番地(電話七二三番)
日下家政婦會
會長 日下すい子

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
平市田町 電話五二三番
高久病院
院長 醫學士 高久忠

安流丸
千野遠
電話 五二二三番
平市 山崎町

電話 五九二番
喫茶、酒場を兼ねた。
レストラン サロン
平市銀座街

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科、
齒列矯正科、小兒科、齒槽膿漏科、
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町(松月堂向)
中野齒科醫院
電話 五〇九番
院長 日本齒科醫學士 中野慈次
日本醫學士 齋谷伍郎
主任 佐藤重義

根本産婦人科醫院
平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
電話 三四番
(入院隨時)

債券、公債
両替、金融 **多田券貨店**
平市大工町 電話 五九一番

朝日
電話 六六九番
平田町(三丁目裏川岸通)
明雲堂眼科醫院
電話 六六九番
入院應需(自炊の便あり)